

アウトで出塁する。代打三戸のショートゴロで土崎二封。代走川原。代打根市キャッチャー・ファールフライ。東北の主砲大塚レフトフライで、ゲームセット。



勝負は水ものと言う。この日は雨で第2試合以降が中止になった。結果は、7対0の完敗だった。5失策、2暴投と自分たちさえ予期せぬ不振だったかも知れない。「負けて覚える相撲かな」と言う。野球だって同じだ。彼我の力の違いを知り、練習量の差を知ってこそ始めて、今日の敗戦が明日の能代高の歴史のかてとなる。とにかく、甲子園で1勝を挙げ、母校の校歌を全国に鳴り響かせた。君たちは本当によくやった。正々堂々と戦い立派に勝ち、いさぎよくに負けた。甲子園を駆けめぐった君たちだけではない。就任わずか数か月でナインを甲子園に引き連れてきた納谷監督、レギュラーをあきらめ野球部の縁の下の力となつて、野球部新聞で選手を励ますことに心を砕いたマネージャーの小林央君、ほかみんなよくやった。

本当にありがとう。

われわれは心から礼を言う。

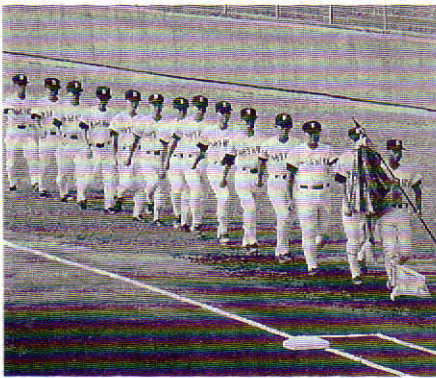
### 第二十七回全国高等学校軟式野球選手権大会 屈指の強豪とあたり 初戦敗退

六月の強化合宿を経て迎えた夏の県大会。その前の秋季東北大会、そして春季県大会を制しながら、夏の県大会では、よもやの一回戦敗退を喫した軟式野球部の全員の胸に「今年こそは必ず明石球場に行く」という決意がみなぎっていた。

対秋田工高戦を七対一、对本荘高戦を三対一で連破し、奥羽大会出場を決めた。盛岡の岩手県宮球場で開催された奥羽大会では、開会式直後の第1試合で、澤田投手が十一個の三振を奪いノーヒットノーランを達成する快投を演じ、盛岡商高を二対〇と完封した。

準決勝の盛岡一高戦、決勝の秋田商高戦を、いずれもたつた一度のチャンスを得点に結び付け、両試合とも二対〇の接戦をものにして、ついに念願の明石球場への出場を決めた。

全国大会優勝以来十年、明石球場から遠ざかること六年。思えば長い道のりだった。



全国大会は八月二六日から、兵庫県明石市、高砂市で幕が切つて落とされた。二四日の抽選会で、初戦の相手は、北九州代表の四日市高と決まった。このところ二年連続で準決勝に進出している強豪中の強豪、今年も優勝候補の筆頭と目されている。

二六日、予定よりも一時間遅れで試合開始。予想通り、四日市高の動きは俊敏、やはり鍛え抜かれた好チームである。

しかし、澤田投手も好調で、3回までに三振八個を奪う力投を見せた。4回表、3本の長短打で2点を先制し、ベンチのムードは盛り上がり、応援席は沸いた。

だが、初回から飛ばした澤田に6回あたりから疲れが見え始め、7回つかまって、3点を奪われ逆転された。続く8回にもランニングホームランで追加点を許した。必死の反撃空しく、試合は2対4で終わった。

抽選によりこの大会を制したチームと初戦で対戦する不運に見舞われたが、選手は臆することなく立派に戦い、だれもが認める好試合を演じたのである。



記念碑除幕式風景、神馬会長挨拶

## 第二部 総会

### ●総会開催の挨拶●

秋田県立能代高校東京同窓会会長

小林 肇氏 旧制十九期



えー、みなさん今晚は。お忙しいところお集まり頂きまして誠にありがとうございます。この同窓会総会は、毎年十月の第一金曜日に開催することにして久しくなりますが、昨年は十周年ということもありまして、久しぶりに土曜日に開催しました。実は今年も土曜日のほうがよかつたのかな、と思っていることが一つあります。昨年は、学校側との連携で、新たな会員の激励会を兼ねました結果、昨年春に卒業されました若い方にたくさん出席頂きました。今年も同じ企画を組んでいたのですが、新卒者は学生さんが非常に多い。本日は金曜日ですのでその方々が、まだ出席できない状況にあるのかと思います。多分これからご出席くださるものと思います。ほとんどの方からご出席の返事を頂いておりますが、時間的な問題があったのではなからうかと、こちら側の不手際をまずお詫びいたします。

本日恒例の同窓会総会を開催するに当たり、ご案内を差し上げましたところ、本当にたくさんの方々に参加頂きましたこと、誠にありがとうございました。特に能代から遠路わざわざご来臨くださいました神馬同窓会会長を始め、椎名学校長、同窓会事務局の方、本日歓迎の新卒会員の担任の先生たちにご参加頂きましたこと、心から感謝いたします。さらに本年は招待の恩師といたしまして、浅野洋一先生、五十嵐研一先生をお招きいたしましたところ、早速ご快諾を頂き、本日こちらにご足労を願っておりますこと、誠にありがとうございます。さらには参議院議員の佐々木満先生も後ほどお見えになる予定でございます。例年ここ数年、同郷の高校ということで呼びかけさせて頂きました能代北高同窓会松蔭会の東京支部、能代工業高同窓会東京支部の東籟会、能代商業高校同窓会東京支部、能代農業高校同窓会、それぞれのみなさまにご来臨頂きましたこと、誠にありがとうございます。

私もはかねがね同窓会はどうあるべきかについて、板倉前会長さんから十五年間もの間教育を受けてまいりました。同窓会というのは、利益団体でも事業体でもありませんので、その運営は難しいものだと感じております。なんと云っても、会を支えるのは会員のみなさんの熱意でございます。こうしてわざわざお集まり頂き、一年間無事な顔をお互い見合せて、日ごろの情報交換をすることを何よりの楽しみとさせて頂いております。しかし、この会は学校が中心でありまた郷里が土台となるものですので、学校の活気が非常に大事であると考えております。申し遅れましたが、神馬同窓会会長がこの春の叙勲で勲章を受けられました。ここにあらためてお祝いを申し上げます。本当におめでとうございました。さらに学校関係のについては、椎名校長からお話があるとは思いますが、今年十四年ぶりに母校野球部が甲子園に出られたことは、久々のクリーンヒットと、われわれも胸のすく思いがいたしました。今年はこのように活気のある姿がいろいろ見られました。このようなことも、同窓会を盛り上げていくうえで非常に重要です。母校と同窓会は切っても切れない関係にあります。母校の活動イコール同窓会と考えております。今後ますます母校の活躍を祈りたいと思っております。一年一度の同窓会となりますと、いろいろお話し上げたいことがございますが、この会を盛り上げるのは会員のみなさまでございます。みなさまの熱意がイコール同窓会の盛り上がりということでございます。私が昨年版倉会長の後を継いで、誠に不足ながら会長役を仰せつかっておりますが、こうやって同窓会総会を開催することができたのは、非常に熱心に会運営に当たって頂いた役員幹事の方々のおかげです。私の出席率はあまりよくありませんでしたが、同窓会の運営には幹事の方々が、いろいろ協議を重ねられました。この後、アトラクションを含めていろいろな催しを考えておるようでございます。何分にも、収益事業ではありませんので、限られた予算の中で非常に苦勞された模様でございます。いずれにいたしましても、幹事の方々が非常に頑張ってくれていますことを、ここで報告させて頂きます。社会的には、不景気と言われ、いろいろ厳しい状況下にあるようですが、今夜はそのことをすべてを忘れ、故郷・学校時代を語り合ひまして、楽しい一時を過ごして頂ければと思います。

どうぞ最後まで、ごゆっくりおくつろぎ頂くことをお願いいたします。私の挨拶にかえさせて頂きます。

どうもありがとうございました。